

### 1 自己評価及び第三者評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2892000189		
法人名	株式会社ファイブシーズヘルスケア		
事業所名	まんてん堂グループホームあかし衣川		
所在地	兵庫県明石市田町2-1-17		
自己評価作成日	平成26年3月19日	評価結果市町村受理日	平成26年5月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 コミュニティ・サポートセンター神戸		
所在地	兵庫県神戸市東灘区住吉東町5-2-2ビュータワー住吉館104		
訪問調査日	平成26年4月4日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者には尊敬の念をもって接し、質の高い接遇をもって対応することを目指している。個別援助を基本としたきめの細かいサービス提供を目指している。外出援助を積極的に行い、利用者の社会参加を促進することを目指している。

#### 【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・利用者の生活の様子をしたためた手作りの手紙と写真、また運営推進会議の記録を利用者一人一人の家族に送付して喜ばれている。・海岸近くに位置するので、緊急通信訓練を通じて市役所との連携は強い。火災訓練は、消防署の指導の下で利用者や家族等も参加して行われ、参加者の感想や写真等も掲載した記録は課題の抽出にも役立っている。・地域資源を活用した社会参加として、隣接の市のコミュニティセンターで開催される講習会や趣味のクラブ等に参加し、地域の方々と馴染みになる機会として利用している。・向上委員会が中心となり、集合研修や新人研修、マニュアル整備等を行っている。特に「笑いのマニュアル」を作成し、スマイルセラピーに取り組んでいる。・近隣の事業所同志の連携・協力体制ができています。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームあかし衣川

評価機関:コミュニティサポートセンター神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社オリエンテーションや新入職員研修、内部研修を通じて「まんてん堂ケアの理念」と地域密着型サービスの使命と目標を掲げた内容の事業所理念を全職員に周知し、その実践に向け日々の業務に取り組んでいる。	法人の理念ならびに行動規準(・気づきと挨拶・早起きと認識即行動・約束と計画行動・報告・連絡・相談・整理整頓・清掃・清潔)を応接室に掲示している。またネームカードの裏に理念を記して職員の理解と意識の徹底を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、地域住民として地域の行事への参加を積極的に行っている。(町内清掃、お祭り、盆踊り大会、防災訓練など)	明石市立衣川コミュニティセンターや地域の参加者の理解の下、利用者の一人はそこで社交ダンスを楽しんでいる。事業所の門扉には大きな掲示板を設け、地域の方にお茶会等の開催や行事の案内を掲示している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	パンフレットや外の掲示板にて介護の相談を受付けている案内している。また、定期的に機関誌を発行をして町内会長や民生委員他の協力の下、配布していただいたり、地域の福祉の相談窓口到手渡したり、ホーム内でも自由に閲覧できるように掲示している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、奇数月に開催日している。開催日は会議にて出席者と相談し決めさせて頂いている。利用者およびその家族、町内会長、民生委員、知見を有する方などに参加していただいている。利用者の利用状況、活動内容の報告をしながら、地域での動きを聴かせていただいたり、参加者からの感想や要望も職員や参加されなかった家族に報告して共有している。	2ヶ月に1回、同法人の小規模多機能型居宅介護と共同で開催し、最新の利用者の生活状況、地域の行事案内等を利用者や家族、民生委員地区代表者、近隣の同業者と情報交換している。終了後は家族と軽食会や昼食会を催し、自由な雰囲気話し合いを行っている。	地域包括支援センターや市役所の担当者に色々な相談事を持ち掛けて、運営推進会議への参加を求めているかがでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明な点は常に確認を行いながら運営を行うように心掛けている。また、沿岸の河川部に近い立地条件でもあることから、水害などの非常災害時の対策等について連携を取っている。(非常災害時通報訓練や実態調査など)	制度上の課題があれば市の高年介護室に相談するなどしている。市役所総合安全対策局とは緊急連絡網があり、避難準備情報・避難勧告・避難指示等の指示を記した緊急FAXの受信確認訓練を行っている。	

# 自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームあかし衣川

評価機関: コミュニティサポートセンター神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入社時の新入職員研修と、年間を通じての内部研修の中で身体拘束、高齢者虐待に関する研修を行い、その防止に努めている。玄関の施錠に関しては、万が一の事故防止の観点から、常に開放はしていないが、開放していくことを目標にして取り組みを始めている。	玄関の扉は施錠していないので、毎朝3名の方が自分で新聞を取りに行く習慣が継続できている。庭先の門の扉は施錠をするようにしている。身体拘束とはどのような行為を意味するのかについて具体的な事例をあげ事業所内部で研修を行っている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入社時の新入職員研修で高齢者虐待防止に関する研修を行っている。特に入浴時、衣類交換時などに利用者の身体状況を確認することや、日々の生活の中での精神的感情の変化など、注意して観察するように努めている。	入浴時には身体的な虐待の有無に細心の注意を払っている。職員には仕事が終わって駅に着いたら頭を切り換えるように、また趣味を大切にすることと助言したり、公休は必ず消化するように薦めたりして職員のストレス面に留意している。	契約時に同時に渡す説明書、「ご家族様へ」の中に書かれている身体拘束等に関する記載は、運営管理規程や契約書等にも明記されることを望みます。
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入社時の新入職員研修で権利擁護、成年後見制度について学ぶ機会を設けている。利用者で必要な方には、個別に情報提供を行っている。	権利擁護に関する制度を利用している方はいない。職員には入職時の新人研修の他に法人の向上委員会が主催する研修の中で学んでいる。受講者はA4版の半分に受講者名と感想・内容を簡潔に記述して管理者に提出するようにしている。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	申し込み時、利用前の面談時、契約時に重要事項を説明するとともに、疑問や不明な点について、ご質問を受けるようにしている。	管理者と計画担当者が、契約書や重要事項説明書を基に説明しているが、同時に事業所独自に作成した説明書「ご家族様へ」も活用している。最近の例としては、同法人内の小規模多機能型居宅介護から転入希望の方に説明したことがある。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	館内に意見箱を設置し、家族、来訪者の意見を伺えるようにしている。運営推進会議、昼食会などを開催し、広く意見を伺う機会としている。	運営推進会議終了後に開催される家族参加者のお茶会や昼食会が意見の交換の場となっている。昨年末家族会を作り大掃除の後に意見交換した。ご意見箱を設置しているが特に意見が出てきていない。面会時間は夜勤帯以外自由になっている。	

# 自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームあかし衣川

評価機関:コミュニティサポートセンター神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1か月に2回、管理者と計画作成担当者、介護主任とミーティング、利用者へのサービスの質の向上を目的としたカンファレンスを開催し、問題点を抽出して改善するように努めている。また、必要に応じて、個別の面談を行い、意見や提案を聞く機会としている。	管理者は月1回定期的に職員と会議をもっている。利用者の生活状態の報告・確認、内部研修の伝達、事故報告書の検討をする。緊急の場合には、ホーム長、主任ならびに計画作成担当の3者会談を行い運営に関して支障がないようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	原則として、夜勤明けの翌日は公休日としている。また、遅出勤務の翌日は早出勤務を入れないなど、シフト勤務を組む上で、体力的な負担がかからないように配慮している。キャリアアップ制度導入に向けての準備、個々の能力・特性を考慮した上で、新規に開設施設の要職への登用など、目標を持って業務に取り組めるような環境にしている。(新規事業所の公募制度など)		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人として、入社時のオリエンテーション、事業所として新入職員研修、現場でのOJTを開催している。また、勤続年数、介護経験に応じて、必要な研修を定期的で開催している。また、認知症実践者研修、計画作成担当者研修、管理者研修などの外部研修にも、受講が適当と認められる該当者を参加させている。また、毎月1回、各テーマ別に必要な内部研修を開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3か月に1回の衣川地区在宅サービスゾーン協議会、グループホーム部会、介護サービス事業者連絡会の研修会などに積極的に参加し、地域内の介護サービス事業者との連携、情報交換などを行っている。		

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームあかし衣川

評価機関: コミュニティサポートセンター神戸

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前にご自宅で、利用者の現在の生活状況や、「その人らしい生活」を実現するためにその方の障害を持たれる以前の生活を詳しくヒアリングするようにしている。また、家族等の関係者の協力も得ながら、利用に対する不安を解消できるよう、本人の要望をお聞きするように努めている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者のニーズと合わせ、家族様のニーズも詳しくお聞きするようにしている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	それまでの生活を急激に変えるようなことは極力避け、かかりつけの医療機関や、フォーマル、インフォーマルなサービスを継続して利用できるように働きかけを行っている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の「自立した生活」をサポートすることを念頭に置き、利用者が主体となれる支援を心掛けている。また、利用者は人生の先輩・顧客として敬うべき存在として接することを意識している。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用前に冊子を手渡ししながら家族の来訪を歓迎していることを伝え、利用後も、「職員とともに介護する」という意識を持っていただけるよう、ご協力をお願いしている。場合によっては、来訪のための送迎も行っている。特に利用開始から間もない時期は、生活の様子等についてできるだけ詳しく、こまめに電話連絡をしたり職員からの手紙を送るようにし、連携を密にするよう心掛けている。		

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームあかし衣川

評価機関:コミュニティサポートセンター神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人などの来訪、電話連絡を積極的に奨励し、必要な援助を行っている。かかりつけの医療機関、行きつけの美容院、スーパーなどへの外出援助も積極的に行っている。	近くの美容室からメンバーズカードをもらい、職員が定期的に同行し馴染みの関係づくりをしている。市内の馴染みの理容室へタクシーで行く男性の方もいる。またある利用者は隣のコミュニティセンターの社交ダンスクラブに入り馴染みの関係を作っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互い交流する中で生活をしていけるような支援を行っているが、利用者同士の関わり合いを好まない方もいらっしゃるため個別に関わることも大切にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も、本人、家族、ケアマネジャーなど関係者に連絡を取るようし、支援できる体制づくりを心掛けている。利用時の介護記録等の書類は、5年間保存・管理している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「その人らしい生活」を実現するために、その方の障害を持たれる以前の生活を再現することを目標としている。また、生活全般について自己決定していただけるように、幅広い選択肢を提示し、本人の意向に沿うように努めている。意思表示が難しい方については、家族の意向を確認したり、同年代の方々の方々の一般的な生活を参考に、本人の様子をうかがいながら、希望・意向をくみ取るように心掛けている。	入居前の詳しい生活歴を利用者、家族から聞き取り、朝食後、入浴時、夜勤帯等日々の暮らしの様々な場面でのコミュニケーションを心掛けて、その方の応答、態度、様子等から意向や思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始前の面談で、本人の現在の生活状況や、「その人らしい生活」を実現するためにその方の障害を持たれる以前の生活を詳しくヒアリングするようにしている。利用開始後も、随時、その方の生活歴を聞き出せるように家族や馴染みの関係者ともコミュニケーションを図っている。		

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームあかし衣川

評価機関:コミュニティサポートセンター神戸

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子、体調の変化などを見逃さないように観察して状況を記録する、後の勤務者に申し送る、カンファレンスで意見交換するなど利用者の状態を把握できるようにしている。また、医師の往診、看護師の訪問、歯科検診などを定期的に行い、情報の共有と報告・連絡・相談ができるような連携をしている。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングについては、個別に定期的の実施し、職員全員の意見が反映できるようにカンファレンスにて話し合い、本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方を協議している。	アセスメントシートをもとに職員全員が意見を出し合い、モニタリング、カンファレンスを繰り返し、本人や家族の要望、思いに寄り添い、現状に即した介護計画となるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は出勤時に目を通すようにし、日々の様子を把握するようにしている。様子の変化については、計画作成担当者に報告し、以後のケアの内容を検討するよう、情報の共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様付添いの通院時、家族様のみでの対応が難しい場合の送迎運転や移乗介助、郵便物の転送や立替え購入などもニーズがあれば対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	緊急搬送先として医療機関との提携をはじめ、公民館、学校、警察、交通機関などの公的機関とのネットワークづくりを行っている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医については、事業所の提携医療機関のほか、これまでのかかりつけ医を利用していただくことも可能としている。ご本人の希望する医療機関を受診することを前提としている。	利用者の大半は、月2回の往診と24時間の連絡体制、入院及び救急の受け入れ医療機関の手配してくれる内科医をかかりつけ医としている。緊急時や専門医の受診の場合等、付き添いが必要な場合は受診の支援をしている。月1回、歯科医の往診もある。	

# 自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームあかし衣川

評価機関: コミュニティサポートセンター神戸

自己	者 第	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師は定期的に事業所を訪れ、利用者の健康管理、健康チェックを行っている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関のソーシャルワーカー、ケアマネジャー等と連絡を取り、本人の状態の把握に努めている。また、退院後スムーズに施設での生活になじめるよう、援助方法の検討などを事前に行っている。	入院時には情報提供書を医療関係者に提出し、入院中は家族や医療関係者等と連携を密に、情報の共有を図り、早期に退院の運びとなるよう支援している。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合の対応に係る指針」を定めている。終末期の介護については、施設でできることを十分に説明した上で、ご利用者様にとって最善の方法を選択できるよう、本人、家族、医療機関等と話し合うようにしている。	ターミナルケアを行っている2名の方がおられる。重度化した時の対応に係わる指針があり、本人や家族に納得いくまで説明し、理解を得た上で、訪問看護等と担当者会議を多く持ち、方針の共有を図り、本人の状況の変化、家族の気持ちの変化、不安等を聞き入れている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入職時に市民救命士講習を受講している。年間を通じて定期的に、緊急時・救急時の対応について研修を行っている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害時に備えるため、年に2回以上、総合訓練(消火訓練、避難訓練、通報訓練など)を行って実践力を身につけている。水害等の危険がある場合は、グループ法人(明石市魚住町、大久保町、神戸市垂水区、須磨区)への避難受け入れ体制も確立している。	利用者、家族も参加し、春は、海に近いため明石市総合安全対策局の指導により、水害時の避難訓練をした。秋は、運営推進会議の後、夜間想定火災訓練をした。備蓄は約3日分ある。近隣施設の協力体制はできている。町内会の会長の参加もある。	近隣住民にこの事業所を身近に感じ、災害対策に協力してもらえるよう、普段から認知症や健康に関する勉強会等開催し事業所と住民の距離感を縮めるといった地道な取り組みも期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様は顧客であるとともに人生の先輩であるという畏敬の念をもって接するように心掛けている。常に丁寧な言葉遣いをするよう、実践している。	人生の先輩である利用者に尊敬の念をもって接し、一人ひとりのその人らしい生活を大切にしている。新人研修の一環として1ヶ月間日記をつけ、人格を尊重する上での言葉使いやプライバシー、接遇など対人援助方法や基本原則を助言する機会を設けている。	



自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームあかし衣川

評価機関:コミュニティサポートセンター神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	要望を聞き取ったり、ニーズを把握するため、積極的にコミュニケーションを図り、要望を聞く際には多様な選択肢を用意し、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、食事、入浴、外出、就寝など、施設の都合で決めるのではなく、利用者のペースに合わせて柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着る服を選んでいただいている。化粧品など本人の好みのものを揃えることも支援している。髭剃りや化粧の支援はまだ不十分なときもある。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段の食事を共に準備したり、後片付けをしたりするようにしている。朝食は、和食・洋食を選択できるようにしている。アレルギーや食べられないものについては、代替えのメニューも選択できるようにしている。月2回、食事レクリエーションの日を作っている。献立決めから買い物、調理まで利用者様と一緒にできる機会を設けている。	月2回特別な日を設け、朝食、昼食、夕食、おやつも、利用者と共にメニューの選択から買い物、調理まで、食事が楽しみとなるよう支援している。訪問当日はお花見の日で、ちらし寿司の盛りつけをされていた。朝、喫茶店にモーニングに出かける方もいる。	おやつ作り等、食事の楽しみの機会がさらに増える事を期待するとともに、普段の生活の中での食事の楽しみ方の工夫も望みます。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の他に水分を積極的に取っていただくように提供回数を増やしたり、自身で自由に飲めるように工夫している。極端に水分摂取量、食事摂取量が少ないと思われる方に対しては、摂取量をチェックし、嗜好の聞き取りを行いながら、十分な量の摂取を促すようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き、食物残渣の除去による口腔ケアを行っている。義歯を使用されている方は、就寝時、義歯洗浄剤で保清している。		

# 自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームあかし衣川

評価機関: コミュニティサポートセンター神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の間隔、量などアセスメントを行い、トイレで排泄できるような促しを行い、できるだけおむつの使用を減らすよう援助している。	くらしアセスメントシートから一人ひとりの排泄パターンを読み取り、トイレでの排泄を大切にしながら、さりげない声かけや誘導をしている。近くのコミュニティセンターで行われた尿漏れ防止体操講習会へも参加し、排泄の自立支援に結びつけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動と、お腹にやさしいお通じの良いものを食べることを勧めている。また、3日以上排泄がない場合は下剤を使用してコントロールしている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間、頻度は、できる限り施設の都合に合わせることなく、本人の以前の生活習慣に沿ったものになっている。	風呂は個浴で、一人ひとりの希望に合わせて、午前中、昼食後、夕食前、就寝前などいつでも利用できる。転倒の危険のある利用者は1対1で対応し、コミュニケーションの場としても活用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	規則正しい生活習慣、リズムをつけていただくよう、運動・栄養・休養のバランスに配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬の情報を保存し、薬の性質について把握したりすぐに確認できるようにしている。かかりつけ医師と薬局には気軽に報告や相談ができる関係にある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の得意なことを理解し、役割を担っていただくことや、個人ごとの趣味を把握し、取り組んでいただける環境を作っている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の散歩、買い物などには、毎日積極的にお声掛けをし、外出していただく機会を増やすようにしている。普段行けないような場所への外出支援は、ご家族様にもお声掛けをして、可能であれば一緒に行っていただくようにしている。	散歩、美容院、スーパーへの買い物、また家族の協力でドライブに出かけたり、近くにある市のコミュニティセンターの健康体操講習等の行事に参加したり、行きたい所へ行けるように支援している。	

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームあかし衣川

評価機関:コミュニティサポートセンター神戸

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣い程度の自由に使える金銭を所持していただき、ご自身で支払いをしていただいている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望に応じて電話をかける(取り次ぐ)、手紙を書く、投函するなどの援助を行っている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	インテリア、絵画、カレンダーなど、季節にあわせた空間づくりを行い、季節感をもっといだけるように配慮している。温湿度計を設置して、快適な空間づくりに配慮している。	3名の方が個人で新聞を契約し、ポストまで自分で取りにいきリビングや居室で新聞を読んでおられる。テーブルは2カ所に配置され、テレビの前のソファはくつろぎや語らいの場となっている。6畳の和室には冬場には炬燵も作る。壁は、利用者が書いた絵画や季節の折り紙で飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングは椅子の他にソファを配置したり、廊下や玄関ホールにベンチを設けたり、和室でも過ごしてもらえようにしたりして、居室以外の居場所をいくつか作っている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、寝具類や、家で飾っていたインテリアなど持ち込んでいただき、できるだけ自宅に近い環境、雰囲気を出せるように配慮している。	慣れ親しんだ家具や座椅子、写真立て等を持ち込んで、以前の暮らしに近い居室となるよう配慮している。服が好きでタンスに収まりきれない程の衣類を持ち込まれ、安心して過している方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	キッチン内は自由に出入りしていただけるようにしている。冷蔵庫や食器棚を開けたり湯沸かしポットを使用したりと、自由にできる声掛けや見守りなどを行っている。		